

公益財団法人 放送文化基金
2026年度 事業計画
(自 2026年 4月 1日 ~ 至 2027年 3月 31日)

2026年度は基幹事業である「1助成、2表彰、3支援活動」に加え、新たな事業展開に資する事業企画を検討する。

1 助成事業 予算額 9,114万円 (積立金の取崩額3,000万円を含む)

「人文社会部門」、「イベント事業部門」、「技術開発」の3部門を柱に助成事業を展開する。助成金の規模は前年予算より1,000万円増額8,000万円(うち3,000万円は助成費用準備資金の取崩しによる)で放送の周辺領域を含む、より広い分野での放送技術に関する研究・開発、ならびに人文・社会科学的な調査・研究、およびイベント事業への助成を実施する。

助成応募件数の増加を図るため、学術誌等への広告掲載を継続するとともに、プロジェクトの実施状況がより詳細に理解できるようホームページでの読み物記事を充実させるなど、助成事業の周知・宣伝活動を強化するとともに、財団のプレゼンス向上に取り組む。

また、3月の「助成金贈呈式」では、近年助成したプロジェクトの中から、視聴者の関心の高いテーマや時宜を得たテーマをとりあげ、成果報告会を行う。

2 表彰事業 予算額 5,272万円

視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組・配信コンテンツ、放送文化および放送技術に関する著しい貢献に対し、表彰を行う。

(1)放送文化基金賞

全国の民放、NHK、番組制作会社に加え、動画配信会社も対象として、広く応募を募り、表彰する。

「放送文化基金賞」の決定については、その受賞作品、受賞者、選考理由等を記者発表し、ホームページで公表する。

○前年度に放送・配信されたドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、ラジオの4部門の番組・配信コンテンツを対象とする。

番組・配信コンテンツの表彰(最優秀賞,優秀賞,奨励賞) 計 16 本以内

個人への賞(演技賞,企画賞,演出賞等)

計 6 件以内

○次の2部門で主に前年度に顕著な業績を挙げた個人またはグループを対象とする。

放送文化・・・放送界に新生面を拓くなど放送文化の発展・向上に貢献した個人またはグループ 4 件以内

放送技術・・・技術の開発や放送現場での工夫・考案で効果を挙げた個人またはグループ 4 件以内

○特別賞

放送の将来を見据え、放送の新たな可能性を切り拓くような番組や取り組みを対象とする。

(2)他の賞への参加

国際コンクールである「ABU賞」(主催 アジア太平洋放送連合)および「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」(主催 日本放送作家協会・NHK)へ参加し、優れた番組や企画、脚本にそれぞれ賞金を贈呈する。

◎ABU賞・・・優れた番組の表彰(ABU賞全体へのスポンサーとして)

◎創作テレビ・ラジオドラマ大賞・・・優れた創作脚本の表彰

3 支援活動事業(制作者フォーラム) 予算額 1,676 万円

放送に携わる若手制作者の人材育成を支援する施策として、地域の制作者が組織の枠を越えて交流を図る制作者フォーラムを各地区で開催する。

今年度は北日本(札幌)、北陸・甲信越(長野)、愛知・岐阜・三重(名古屋)、中四国(徳島)、九州・沖縄(福岡)の5地区での開催を見込んでいる。また、東京で全国制作者フォーラムを開催する。

4 新規事業企画 予算額1,000 万円

メディア状況と時代の変化を見据えた独自事業をメディア学会とも連携しながら開発、展開する。

(1)「番組を見る会・語る会」の定期的な開催

(2)配信業界も含めたメディア横断の人材交流・育成事業

(3)メディア状況の変化を考察するシンポジウム開催(メディア学会と連携)